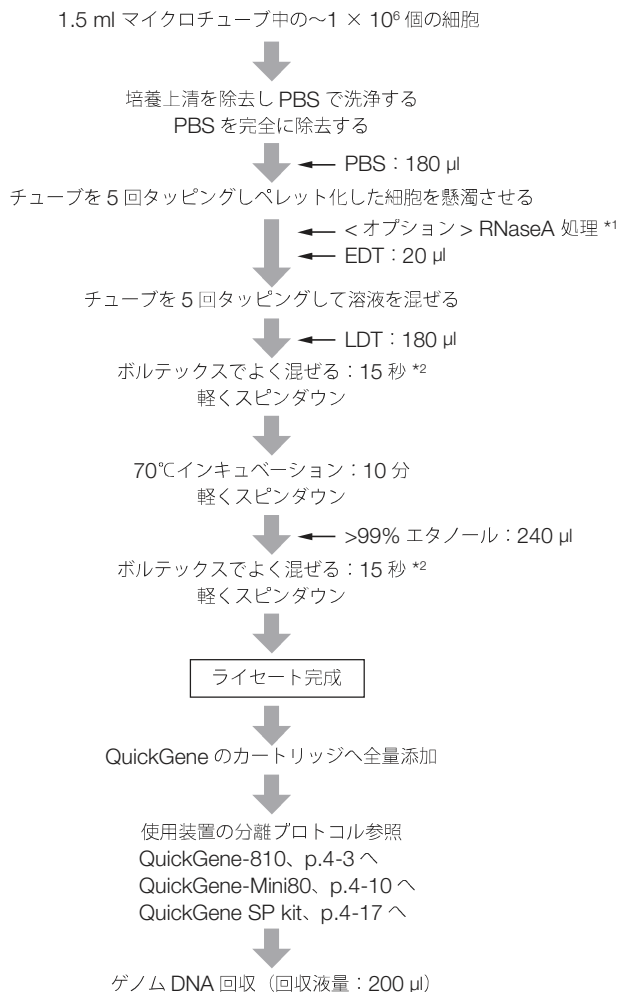


3-VIII 章

培養細胞からのゲノム DNA 分離

ヒト HepG2培養細胞からのゲノムDNA分離

プロトコル



*1 RNaseA : 20 μl
チューブを 5 回タッピングして溶液を混ぜる。
軽くスピンドウン
常温で 2 分間放置

*2 ボルテックスで完全に混ぜる
(最大回転数)
ボルテックスで混合が不十分ならば、タッピング、ピペッティングあるいは転倒混和を使用。

結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

HepG2 細胞の数	収量 (μg)
5 × 10 ⁵ 個	5.2

タンパク質の混入：A260/280

HepG2 細胞の数	A260/280
5 × 10 ⁵ 個	1.7

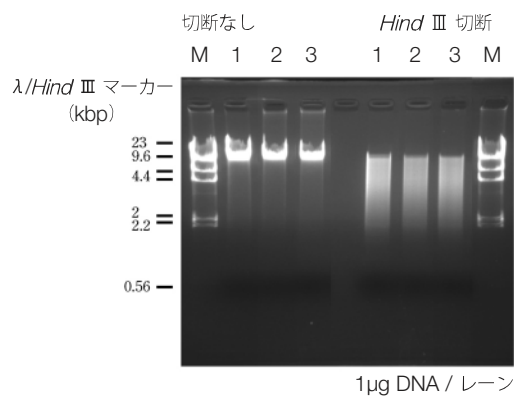
カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

■ その他

● 制限酵素切断

QuickGene 分離システムと試薬を用いて数種の細胞株から分離されたゲノム DNA の *Hind* III 制限酵素切断断片の AGE



QuickGene-810 (自動核酸分離システム) および QuickGene DNA tissue kit S を用いて分離したゲノム DNA が *Hind* III 制限酵素で効果的に切断された。

M : λ /*Hind* III digest

1 : HepG2 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

2 : Huh6 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

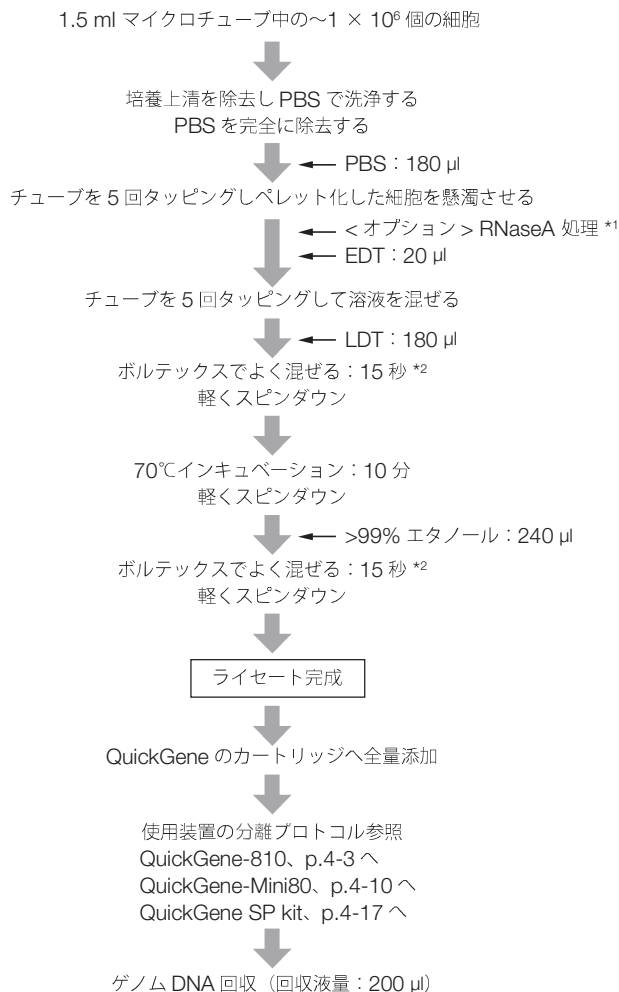
3 : Huh6 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

■ 共通プロトコルサンプル

ラット PC-12 培養細胞、マウス ES 培養細胞

ヒト Huh6 培養細胞からのゲノムDNA分離

プロトコル



*1 RNaseA : 20 μ l
チューブを 5 回タッピングして溶液を混ぜる。
軽くスピンドウン
常温で 2 分間放置

*2 ボルテックスで完全に混ぜる (最大回転数)
ボルテックスで混合が不十分ならば、タッピング、ピペッティングあるいは転倒混和を使用。

結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

Huh6 細胞の数	収量 (μ g)
Huh6	7.6
Huh6 から由来	6.6

タンパク質の混入 : A260/280

Huh6 細胞の数	A260/280
Huh6	1.8
Huh6 から由来	1.7

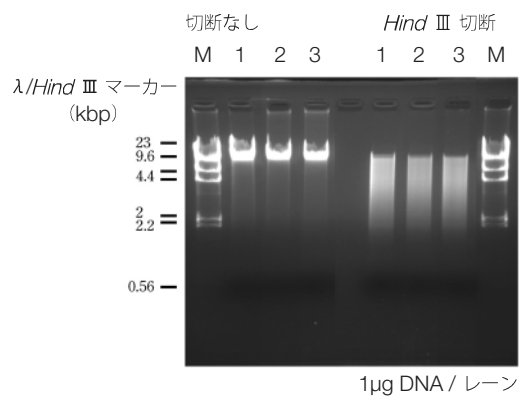
カオトロピック塩の混入 : A260/230

データなし

■ その他

● 制限酵素切断

QuickGene 分離システムおよび試薬を用いて数種の細胞株から分離したゲノム DNA の *Hind* III 制限酵素切断断片の AGE



QuickGene-810 (自動核酸分離システム) および QuickGene DNA tissue kit S で分離したゲノム DNA が *Hind* III で効果的に切断された。

M : λ /*Hind* III digest

1 : HepG2 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

2 : Huh6 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

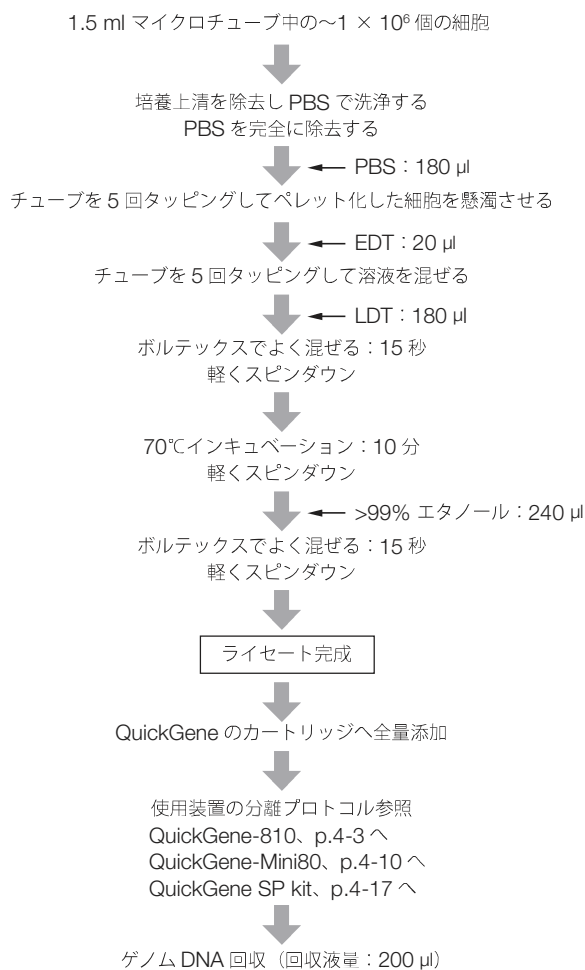
3 : Huh7 細胞株からのゲノム DNA (0.5 × 10⁶ 個の細胞)

■ 共通プロトコルサンプル

ラット PC-12 培養細胞、マウス ES 培養細胞

マウス HS 培養細胞からのゲノムDNA分離

プロトコル



結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

ES 細胞の数	収量 (μ g)
1×10^6 個	約 1.0

タンパク質の混入 : A260/280

データなし

カオトロピック塩の混入 : A260/230

データなし

その他

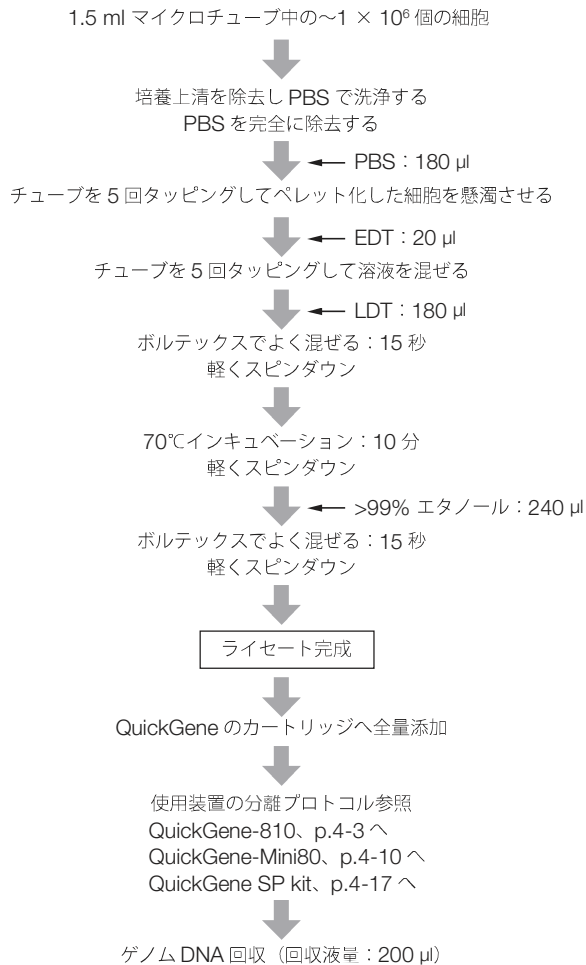
データなし

共通プロトコルサンプル

ヒト培養細胞株、ラット PC-12 培養細胞

ラット PC-12 培養細胞からのゲノムDNA分離

プロトコル



結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

PC-12 細胞の数	収量 (μ g)
1×10^6 個	約 15.0

タンパク質の混入 : A260/280

PC-12 細胞の数	A260/280
1×10^6 個	1.45

カオトロピック塩の混入 : A260/230

データなし

その他

データなし

共通プロトコルサンプル

ヒト培養細胞株、マウス ES 培養細胞

